

## アンリツグループ「現代奴隷」に係るステートメント（仮訳）

### 1. 本ステートメントについて

このステートメントはアンリツグループの現代奴隷に係る当該期間（2022年4月から2023年3月まで）の活動報告と今後の計画を、英国現代奴隷法(Modern Slavery Act 2015)および豪州現代奴隷法(Modern Slavery Act 2018)に基づき開示するもので、一部2023年4月以降の活動報告が含まれます。

各報告企業（\*）で協議し作成した共同のステートメントであり、全てのグループ企業の担当役員で構成される経営戦略会議で審議され取締役会で承認されたものです。

\* アンリツ株式会社、Anritsu EMEA GmbH、Anritsu EMEA Limited、Anritsu Proprietary Ltd.

### 2. 人権尊重に関する取り組み

アンリツグループは、人権に関する国際規範に基づいて、社内規範となる「企業行動憲章」や「行動規範」を制定し、児童労働および強制労働を認めない方針を明確にしてサステナビリティ経営に取り組んできました。2006年3月からは国連グローバル・コンパクトに参加しています。2022年12月には国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、グループの人権尊重に関する最上位の指針として「アンリツグループ人権方針」を制定し社内外に周知しました。また、世界各地のサプライチェーンの取引先さまに「アンリツグループ CSR 調達ガイドライン」を配付し、取引先さまにおける実態を調査するなど、さまざまな取り組みを行っています。

### 3. 組織の構造、事業、サプライチェーン

アンリツグループは、アンリツ株式会社、子会社 45 社、関連会社 1 社により構成され「はかる」技術をコアコンピタンスとして、通信分野と食品加工・医薬品検査分野を中心にソリューションを提供しています。通信分野においては、5G など先端テクノロジーを活用したネットワークの構築を支えるモバイル計測のトップサプライヤーであり、食品加工・医薬品検査分野では食品ロスの削減や医薬品の信頼性向上に貢献する企業グループです。

Anritsu EMEA GmbH（本社：オーストリア・ウィーン）は、ヨーロッパ、中近東、アフリカ地域で、Anritsu EMEA Limited（本社：イギリス・ルートン）は、英国およびアイルランドで、Anritsu Proprietary Ltd.（本社：オーストラリア・マウント・ウェイブレイ）はオーストラリアをはじめとするオセアニア地域で、主に通信用計測器の販売および保守を実施しています。アンリツ株式会社（本社：日本・神奈川県厚木市）はこれら3社の親会社となります。

アンリツグループの製品およびサービスに関わるサプライチェーンはグローバルに広がっています。アンリツグループの企業活動は以下のウェブサイトにて公開されています。

アンリツ株式会社：<https://www.anritsu.com/ja-JP/>

Anritsu EMEA GmbH/Anritsu EMEA Limited：<https://www.anritsu.com/en-GB>

Anritsu Proprietary Ltd.：<https://www.anritsu.com/en-AU>

#### 4. 現代奴隷および人身取引に関する方針

アンリツグループの人権尊重の最上位の指針として定めた「アンリツグループ人権方針」に記すとともに、この方針を受け、企業または個人の行動の拠り所として定めている「アンリツグループ企業行動憲章」および「アンリツグループ行動規範」にも規定しています。

##### アンリツグループ人権方針

人権に関する最上位の指針である「アンリツグループ人権方針」では「労働の基本原則及び権利に関する国際労働機関（ILO）宣言」の中核的労働基準である「結社の自由及び団体交渉権の効果的な承認」、「あらゆる形態の強制労働の禁止」、「児童労働の実効的な廃止」、「雇用及び職業における差別の排除」を支持・尊重していることを宣言しています。

<https://www.anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/sustainability/respect-persons>

##### アンリツグループ企業行動憲章

企業行動の指針である「アンリツグループ企業行動憲章」に次の通り定めています。

**人権尊重：**すべての人々の人権を尊重し、人種、性別等による差別的取扱いや、個人の尊厳を損なう行為を行いません。また、児童労働、強制労働を認めません。

##### アンリツグループ行動規範

グループで働く全員の行動を定めた「アンリツグループ行動規範」に次の通り掲げています。

**基本姿勢：**私達は、すべての人々の人権を尊重し、差別的取扱いや、個人の尊厳を損なう行為を行いません。また、児童労働、強制労働を認めません。

#### 5. アンリツグループの人権デューデリジェンスに関する活動（当該期間の活動報告を含む）

##### 現代奴隷と人身取引に関する人権リスク評価

2023年1月から2023年5月にかけて、Caux Round Table（CRT）日本委員会の協力の下「人権への負の影響の特定、分析、評価」のための人権リスクアセスメントを実施しました。このアセスメントは、アンリツグループの全ての事業の、調達－開発－製造－販売－利用－廃棄のバリューチェーンの各段階における、人権に負の影響を与える可能性を評価することで備えるべき人権リスクを抽出し、今後優先して対応すべき国、事業、およびライツホルダー（人権の負の影響を受ける可能性のある対象者）を明らかにするものです。

国際的なリスク分析・リサーチ・戦略予測の専門機関の人権リスクデータベースを活用したデスクトップ調査と関連部門のメンバーが参加するワークショップを実施し、アンリツグループの事業拠点が所在する24カ国の国の人権リスクと事業に付随する人権リスクの観点から、備えるべき人権リスクの抽出を行いました。そしてこの抽出されたリスクを、人権への影響度と会社との関連性の観点から、リスク管理部門および各関連リスクオーナーが評価を行い、現代奴隷および人身取引の視点からは、次の点を当グループとして優先的に取り組む人権課題として特定しました。

- ・ 人権リスクの高い国における部品・機器調達先の労働環境調査の推進

今後はこれを踏まえ、人権への負の影響の防止・軽減、対応の実行性の追跡評価、外部への情報提供といった人権デューデリジェンスの仕組みを整え、人権尊重の取り組みを進めていきます。

### 人権への負の影響を予防・低減する取り組み グループ内に向けた活動

人権尊重を含むアンリツグループ行動規範を入社時に社員に配付し、遵守する旨の誓約を取る他、毎年、人権尊重の重要性を再認識させるための教育を実施するとともにアンリツグループ行動規範遵守の確認書の提出を求めています。また、定期的に行う企業倫理調査や内部通報等により、人権尊重を含めたコンプライアンス問題の有無をチェックし適切な対応を取っています。

当該期間の活動は以下の通りです。

- ・2022年4月、「企業倫理推進強化週間」において、日本国内アンリツグループの従業員が「行動規範」の遵守を目的とした教育を受講し、教育効果の確認のステップを経て、3,187人が確認書を提出しました（提出率100%）。
- ・2022年10月、海外アンリツグループの従業員1603人が、前項同様に「行動規範」の確認書を提出しました（提出率99.4%）。
- ・2022年10月、例年行われている「企業倫理推進月間」の活動の中で、人権に関する法規を含む企業倫理調査を実施し、法務部門が各担当役員に調査結果をフィードバックし、改善に向けた対策を講じました。
- ・2023年1月から2023年5月、人権リスクアセスメントを実施しました。
- ・2023年3月、経営戦略会議に年間のコンプライアンス推進活動の結果として、重大な法令等に係るコンプライアンス上の問題はなかったことを報告し、取締役会に上申しました。
- ・2023年3月、取締役会へ「2022年度アンリツグループのコンプライアンス活動報告」（「英国および豪州現代奴隷法」の対応含む）を報告しました。
- ・アンリツグループでは、日本、米州、EMEAおよびAPAC地域に従業員からのコンプライアンスに関する相談・通報を受け付ける匿名の社外窓口を設置しています。設置以降、2023年3月末までに、累計141件の相談等が寄せられて対応しました。

### サプライチェーンに向けた活動

サプライチェーンの取引先さまへ『アンリツグループCSR調達ガイドライン』を配付し人権尊重の取り組みをはじめとしたCSR調達に対する理解を求めています。また、本CSR調達方針を尊重し取り組みに協力いただける旨の同意書の提出を、取引先さまに求めています。

さらに、アンリツグループでは取引先さまへCSR調達アセスメントを実施しております。このアセスメントは人権をはじめとしたCSRの各設問について取引先さまが自己評価を行うものであり、その取り組みが可視化されます。人権に関する設問において、2022年度の取引先さま平均点は、28点満点中27.14点でした。回答内容の詳細やエビデンスを確認するため、取引先さまのインタビューを現地訪問およびオンライン形式で行っていますが、現代奴隷および人身取引に関する問題は発見されませんでした。今後もサプライチェーンにおける現代奴隷および人身取引撲滅のため、これらの取り組みを強化してまいります。

アセスメントでは人権について以下の設問があります。

- a. 強制的な労働の禁止 b. 児童労働の禁止、若年労働者への配慮 c. 労働時間への配慮  
d. 適切な賃金と手当 e. 非人道的な扱いの禁止 f. 差別の禁止 g. 結社の自由、団体交渉権

当該期間（2022年4月～2023年3月）に、サプライチェーンにおける人権リスクを予防、低減するために以下の活動を行いました。

- ・2023年1月、取引先さま懇親会にて資材調達部門より取引先さまに対して「アンリツグループ人権方針」の周知を含め、CSR調達活動の推進とSDGsへの取り組みについて説明しました。
- ・取引先さま422社へCSR調達アセスメント調査票を配付し、363社から回答をいただきました。残59社については督促を重ねております。また2023年度の重点CSR調査対象といたします。
- ・CSR現地インタビュー（国内3社、アジア圏3社）を実施しました。
- ・海外取引先さま向けのCSR調達推進ガイドラインおよびCSR調達アセスメントについては、英語および中国語で対応しました。

## 6. 啓発・研修（過去の研修および当該期間の活動を含む）

- ・2016年10月、日本国内グループ向け社内報で「英国現代奴隷法」の周知をしました。
- ・2016年12月、グローバル向け英文社内報で「英国現代奴隷法」の周知をしました。
- ・2017年1月～3月、全グループ（グローバル含む）の社員全員に人権問題および「英国現代奴隷法」の内容を理解するための研修(WBT)を実施しました。
- ・2018年3月、Anritsu EMEA Limitedの全員に「英国現代奴隷法」に関する研修(WBT)を実施しました。
- ・2019年4月に日本国内グループ全社員へ、2019年10月に海外グループ全社員へ人権尊重を理解する研修(WBT)を実施しました。
- ・2020年4月に日本国内グループ全社員へ、2020年10月に海外グループ全社員へ人権尊重を理解する研修(WBT)を実施しました。
- ・2021年10月に経営理念からアンリツグループ行動規範までを、常に行動の拠り所として確認できるように整理した小冊子を全社員に配付し、周知しました。
- ・2022年9月に日本国内グループ全社員へ、2023年2月に海外グループ全社員へSDGs研修(WBT)を実施しました。
- ・2023年5月に日本国内グループ全社員へ「ビジネスと人権」研修(WBT)を実施しました。

## 7. 活動の有効性についての評価

アンリツグループはこの報告期間中、サプライチェーンにおけるCSR調達の推進について、CSR調達アセスメント結果に対する現地インタビューの実施件数および取引先さまとの情報交換会などエンゲージメントの機会についてKPIを設定し、活動の有効性を評価してきました。

今後はこの期間に新たに実施した人権リスクアセスメントを通じて特定した優先的に取り組む人権リスクへの活動の有効性を評価する KPI の検討を進め、事業やサプライチェーンにおける現代奴隷の撲滅に向けた活動の有効性の評価の質を高める取り組みを継続していきます。

本ステートメントは 2023 年 7 月の経営戦略会議で審議され、その後当社取締役会において承認されました。

濱田 宏一

アンリツ株式会社  
代表取締役社長  
グループ CEO  
濱田 宏一  
2023 年 7 月

このステートメントは、英国現代奴隷法（Modern Slavery Act 2015）に基づいて作成されたもので、Anritsu EMEA GmbH の 2022 年度のステートメントです。

Anritsu EMEA GmbH はアンリツ株式会社の子会社として、オーストリアにオフィスを置き、主に通信用計測器の販売および保守をヨーロッパ、中近東、アフリカ地域で実施しています。

Anritsu EMEA GmbH は、オーストリアのアンリツ株式会社の子会社として、本社が発表した「現代の奴隷制度に関する声明」を完全に遵守しています。

本ステートメントは、アンリツ株式会社の執行役員で Anritsu EMEA GmbH の取締役が参加した 2023 年 7 月のアンリツ株式会社 経営戦略会議で審議され、その後取締役会で決議されました。

田中 憲次

田中 憲次  
ディレクター  
Anritsu EMEA GmbH  
2023 年 7 月

このステートメントは、英国現代奴隷法（Modern Slavery Act 2015）に基づいて作成されたもので、Anritsu EMEA Limited の 2022 年度のステートメントです。

Anritsu EMEA Limited はアンリツ株式会社の子会社として、英国ルートンにオフィスを置き、主に通信用計測器の販売および保守を英国およびアイルランドにて実施しています。

Anritsu EMEA Limited は、英国のアンリツ株式会社の子会社として、本社が発表した「現代の奴隷制度に関する声明」を完全に遵守しています。

本ステートメントは、アンリツ株式会社の執行役員で Anritsu EMEA Limited の取締役が参加した 2023 年 7 月のアンリツ株式会社 経営戦略会議で審議され、その後取締役会で決議されました。

田中 憲次

田中 憲次  
ディレクター

Anritsu EMEA Limited  
2023 年 7 月

このステートメントは、オーストラリア現代奴隷法（Modern Slavery Act 2018）に基づいて作成されたもので、Anritsu Proprietary Ltd. の 2022 年度のステートメントです。

Anritsu Proprietary Ltd. はアンリツ株式会社の子会社として、オーストラリア Mount Waverley にオフィスを構え、主に通信用計測器の販売および保守を、オーストラリアをはじめとするオセアニア地域で実施しています。

Anritsu Proprietary Ltd. は、オーストラリアのアンリツ株式会社の子会社として、本社が発表した「現代の奴隷制度に関する声明」を完全に遵守しています。

本ステートメントは、アンリツ株式会社の執行役員で Anritsu Proprietary Ltd. の取締役が参加した 2023 年 7 月のアンリツ株式会社 経営戦略会議で審議され、その後取締役会で決議されました。

田中 憲次

田中 憲次  
マネージング ディレクター  
Anritsu Proprietary Ltd.  
2023 年 7 月